

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立入野小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>【成果】・学校評価システムを活用しながら、個人や部会の目標設定と反省を行った。改善策についても共通理解をすることができた。</p> <p>【課題】・9年間の学びと育ちを念頭に置きながら、小小連携・小中連携を進め、学力向上や心の教育、体力向上に向けた取組の継続と改善を図っていく。</p> <p>・新学習指導要領の実施に伴い、教職員の資質向上をめざし、授業改善を進め、研修の場の工夫をする。</p>
2 学校教育目標	自ら学び、まわりと協働しながら、これからの社会を創りだす入野っ子の育成
3 本年度の重点目標	<p>① 知・徳・体の9年間の学びと育ちを念頭に置きながら、肥前中校区で小中連携を推進していく。</p> <p>② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実現。</p>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	<p>●全職員による共通理解と共通実践</p> <p>○一人ひとりが考えを深めたり、広めたりするための指導の工夫(授業改善)</p>	<p>●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上</p> <p>○「話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広めたりすることができている」と回答した児童が80%以上。</p>	<p>・教職員間でマイプランを共有し、校内研修や学年部会等で取り組みについて紹介することで、より良い実践を探っていく。</p> <p>・話し合い活動での教師の役割を明確にする。</p> <p>・話し合い活動での問い返しの言葉を吟味する。</p>	
●心の教育	<p>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</p> <p>●いじめの早期発見、早期対応体制の充実</p> <p>◎志を高める教育</p>	<p>○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上。</p> <p>○児童理解に基づく、いじめを許さない集団作りができた教員80%以上。</p> <p>○いじめ防止について組織的に対応できていると回答した教員80%以上。</p> <p>○故郷が好きな児童の割合が90%以上。</p>	<p>・人権集会・全校朝会や学級活動を通して、人権の大切さについて伝えていく。</p> <p>・道徳の授業実践を重ね、子どもの姿を見取る。そのための研修を行う。</p> <p>・体験を通して地域理解やその活動を通して、学んだことを自分や地域に発信する。</p> <p>・構成的エンカウンターやソーシャルスキルテストなどを取り入れた授業実践を重ねる。</p> <p>・生活アンケートを月に1回実施し、早期発見につなげる。</p> <p>・学年グループでの情報交換や授業の相互参観を通して、学級づくりへの助言を行う。</p> <p>・キャリアパスポートの効果的な活用について工夫していく。</p> <p>・郷土について学ぶ体験活動を整備していく。</p>	A	<p>・「話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広めたりすることができている」と回答した児童は80%だった。</p> <p>・日々の授業で、提示問題を工夫したり、丁寧に見直しをさせたりすることで、児童が「解きたい」という気持ちが高まった。</p> <p>・コロナ禍での授業研究会で「見直し」のふり返りの2つの視点を軸として研究することになった。話し合い活動での教師の出番については授業記録をもとに議論することができた。</p> <p>・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童96%だった。</p> <p>・人を大切にできる。人にやさしくできる。偏つたりしないようになるなどの他者への思いやりの部分の伸びを実感できた児童が多かった。</p> <p>・いじめを許さない集団づくりができた教員は100%だった。</p> <p>・いじめ防止について組織的に対応できていると回答した教員は100%だった。</p> <p>・月に1回の生活アンケート、年に2回のいじめアンケートを実施し、早期発見、未然防止に努めることができた。</p> <p>・授業の相互参観や、情報共有、校内研修等を通して、いじめを許さない集団作りについて研鑽を積み重ねることができた。</p> <p>・故郷が好きな児童の割合は100%だった。</p> <p>・自分の将来に夢や希望をもてる児童が93%だった。コロナ禍で郷土について学ぶ体験活動の減少や地域での出番の確保が難しいところだが、様々な方との交流が自分の生き方を見つけることにつながった。</p>	A	<p>・学校がきれいだった。</p> <p>・「あいさつ」「返事」「はきものそろえ」の取組が浸透していて、児童の心の涵養につながっていると感じられた。</p> <p>・いじめの未然防止から対応までよくやっている。アンケート等を通して、小さいトラブルかも真摯に対応しているところがよい。</p>	<p>・道徳教育推進教師</p> <p>・人権・同和教育担当</p> <p>・特活部</p> <p>・生徒指導主任</p> <p>・生活部</p>
●健康・体づくり	<p>●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」</p> <p>○運動習慣の定着と改善</p>	<p>●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上</p> <p>○朝食を食べて登校する児童90%以上</p> <p>○15分休みや昼休みに運動やスポーツを行う児童が70%以上になる。</p>	<p>・保健だよりや給食だよりを通して食の大切さを伝えていく。</p> <p>・年に2回の「弁当をつくる日」や食育講演会などのPTAと連携して、親子で食について継続的に考える機会を大切にしている。</p> <p>・児童の実践意欲を引き出すように、学習カードや呼びかけの工夫を行っている。</p> <p>・柔軟性や体感を高めるために、授業の始まりに「体づくり運動」を取り入れる。</p>	A	<p>・「健康に食事は大切である」と考える児童生徒100%だった。</p> <p>・朝食を食べて登校する児童90%以上だった。</p> <p>・保健だよりや給食だより、学校だよりを中心に食の大切さを定期的に取り上げることで保護者と連携した取り組みとなった。</p> <p>・食育講演会は実施できなかったが、PTAと連携した「弁当をつくる日」の取組も親子で食について考える絶好の機会として定着している。</p> <p>○15分休みや昼休みに運動やスポーツを行う児童が平均して70%以上だった。</p> <p>・スポーツチャレンジでは県で上位に入り、縦割り8の字跳び、握力、オリンピック選手に挑戦の9つの部で表彰を受けた。</p>	A	<p>・食育の推進や自分でお弁当をつくる取り組みなどは子どもたちの将来、必ず役に立ってくれるものなので、本当に良いと思う。</p> <p>・たくさん子どもたちが外で元気に体を動かしている。縦割り活動での異学年のかかわりも効果的である。</p>	<p>・食育担当</p> <p>・保健主事</p> <p>・保体部</p> <p>・PTA担当</p> <p>・保体部</p>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<p>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</p> <p>○情報の共有化と業務の平準化</p>	<p>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</p> <p>○業務改善に対する効果を感じる職員の割合70%以上。</p>	<p>・定時退勤日の設定</p> <p>・退勤予定時刻や提出物の締め切り日と呼び掛けることで時間を意識して業務を遂行できるようにする。</p> <p>・共有フォルダーを活用し、様式や資料の共有化を図り、効率的に業務を進める。</p> <p>・専門部や学年グループで協働的に業務を進め、負担が個人に偏らないようにする。</p>	A	<p>・時間外勤務の平均時間は約30時間だった。</p> <p>・定時退勤日の推進や締め切り日の声掛けなどで業務の優先順位を考えたり効率化について意識したりするようになってきた。</p> <p>・業務改善に対する効果を感じる職員の割合は82%だった。</p> <p>・専門部や学年グループで協働的に業務を進めることができるようになってきた。</p>	A	<p>・学校の雰囲気が良いのは、先生たちが元氣だから。時間を意識して、無理のないように進めてほしい。</p> <p>・仕事に負担が偏ることが無いように、時折見直すことも必要である。</p>	<p>・管理職</p> <p>・全職員</p>

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○特別支援教育	○特別支援教育の充実	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上。	<p>・必要に応じて適宜、支援会議を実施する。</p> <p>・特別支援に関する研修会の実施。</p> <p>・ユニバーサルデザインに基づく学級掲示や経営を促進する。</p>	
○安心・安全な学校づくり	○危機管理意識の高揚と安全教育の充実	○危険予測能力が向上した職員の割合が80%以上。	<p>・事例研修等を通じ取り入れ、危機管理意識を高めておく。</p> <p>・組織で対応できるように、日頃から「報・連・相」を徹底しておく。</p> <p>・安全教育では、体験的学びと振り返りを大切に、自ら命を守るよう意識を高める。</p> <p>・KYT(危険予知トレーニング)の効果的な活用。</p>	A	<p>・危険予測能力が向上した職員の割合が90%を超えた。</p> <p>・生活部を中心に、避難訓練の内容や対応の仕方や時代のニーズに応じたことや地域の実態に応じたものに改良することで、危機意識や当事者意識が高まった。</p>	A	<p>・日頃から大人が意識を高めておくことが大事である。また、子ども達一人ひとりに応じた声かけが大切なことも分かった。</p>	<p>・生活部</p> <p>・教頭</p>
○小中連携の推進	○9か年の学びと育ちを念頭に置いた、幼小連携、小小連携、小中連携の工夫	○肥前中学校区での学習公開や体験活動を推進する。(授業公開1回、研究発表会1回、合同体験活動3回以上。)	<p>・行事や学習を相互参観したり、合同で行ったりする。</p> <p>・中学校区で設定した共通目標に照らし合わせて、随時、評価・改善していく。</p>	B	<p>・コロナ禍の中、計画通りの活動は難しかったが、共通目標のもと、肥前中学校区のできる部分での学習公開や体験活動を推進することができた。</p> <p>・連携の形態や内容については工夫をしなければならぬ。</p>	B	<p>・コロナ禍での交流は難しそうであるが、4つの学校で一つの目標に向かって、取り組んでいるのは子どもたちの成長にとってプラスである。</p>	<p>・小中連携担当</p> <p>・幼小連携担当</p> <p>・教務主任</p>

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・中間評価の実施により、全職員でそれぞれの取組の進捗状況や達成度の確認ができ、共通理解のもと児童の実態や社会のニーズを踏まえた教育活動の改善を図ることができた。</p> <p>・コロナ禍により地域人材の活用、講師を招いた体験活動などあまりできなかった。地域への発信については、家庭、地域と連携しながら、より良い在り方を探っていきたい。</p> <p>・コロナ禍により先進校視察や講師招聘での研修会等ができなかったが、研究発表会やマイプランの活用、校内研究での視点の整理を通して、共通理解を図り、授業改善を進めることができた。</p> <p>・コロナ禍により体験活動や相互参観など、従来通りの交流をもとにした小中連携はあまりできなかった。4校で目標を共有しながら、連携の形態や内容について工夫し、推進していきたい。</p>
----------------	---